平成 21 年度第 3 回松阪市環境パートナーシップ会議

日時　平成 22 年 2 月 22 日（月）　午後 3 時 00 分～午後 4 時 45 分

場所　　三重県松阪庁舎　6 階大会議室

出席者

22 名

会長
朴　恵淑（三重大学学長補佐）
副会長
西出紀生（松阪市自治会連合会）
市民　1 名
滝本玲子
市民団体　8 名
飯南地区生ゴミ堆肥化研究グループ（結城）、魚町一の会（石村）、嬉野アイリス（小坂）、健康・福祉・環境日本一をめざす市民会議（大平・伊藤）、松阪市自治会連合会（横井）、三雲アイリス（中村）、三雲食生活改善推進連絡協議会（市川）
事業者・商工会他　7 名
株式会社アンジェロ、生活協同組合コープみえ、セントラル硝子株式会社、松阪農業公園ベルファーム、松阪商工会議所、松阪北部商工会、パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社
オブザーバー
三重県松阪農林商工環境事務所
事務局　3 名
三田環境課長、山口環境推進担当主幹、垣本

議事の内容

1. **今後の活動のあり方について**

※事務局より平成 21 年度取組内容及び活動報告、他市のパートナーシップ会議状況の説明。

会長　：緑のカーテンだが、「もってこに！マイバッグレジ袋有料化検討会」でも取り上げられており、この会議と連動することによって、「緑のカーテン松阪モデル」としてより良いものになっていくと思う。7 月 7 日のライトダウンキャンペーンも良い形で実施できた。第 1 回、第 2 回の松阪市環境パートナーシップ会議を開催し、初歩的なところで皆さんと意見をかわすことができ、このパートナーシップ会議が動けるようになる規定などが決定したことで、飛躍的な活動が出来るようになり大変良かったと思っている。9 月 20 日に行った環境フェア in ベルファームだが、今まではどちらかというと行政主体で行っていたのに対し、これは環境パートナーシップ会議の会員が主体となり展示等を行ったことで、パートナーシップ会議が何であるかが多くの方たちに理解してもらえた良い機会だったと思う。他市のパートナーシップ会議だが、同じことをやる必要はなく、松阪市は松阪市の方式で松阪らしいことをやればいい。他の市が何をやっているかを知ることは松阪市らしいことをやるために必要だ、と事務局が調べてまとめてくれた。この中の「エコパートナーくまもと」は、環境パートナーシップ会議の

人がいろんな活動をしているが、必ずしもメンバーが参加しなくてはいけないわけではなく、会員ではない人たちが参加しても構わない、緩やかな感じのものになっている。そういうことを踏まえて、これから松阪市環境パートナーシップ会議は何をしていくのかを考えねばならない。皆さんの意見をいただきたいということだが、レジ袋有料化を考える会との連動で、「緑のカーテン松阪モデル」という形にして、現在レジ袋収益金が 115 万円ほどあり、それを有効に使って 1 市 5 町の 100 を超える保育園、子育て支援センター、幼稚園、小学校に、松阪市内はそれより少ないと思うが、アサガオの種を配って育ててもらう。飯南、相可、昴学園の 3 つの高校で育成してもらったゴーヤなどの苗を公的施設等に配布して、子どもへの環境教育という観点から、また環境パートナーシップ会議でも行われているので、ばらばらに行うのではなく一緒に社会的取り組みとして発展できないかな、ということを考えている。皆さんの方からもっといいアイディアがあったら、是非とも出していただきたい。それからライトダウンについて、市役所だけでなく他の施設にも発展させて、松阪モデルとして力を入れてやっていけるのではないかと思う。環境フェアについてだが、市ではなくこの会が中心となって多くの方々にお願いをして、一緒に松阪方式で環境に関するものは何でもありの環境フェアを、この環境パートナーシップ会議の目玉としてやっていったらどうかなと思う。つまり、今までやってきたものに取り組んでいくのだが、親子環境学習会もこの会が中心となって、会員のノウハウを使って出来ればいいと思うのだが。このように、去年行ったものを発展させて行っていくことが、2 年目に向けた環境パートナーシップ会議の方向性だと思っている。その他に良い案があれば提案していただき、会員だけでなく皆さんに関わっているいろんな方々を巻き込んでやっていく。他の市もやっているように、グループに分けて取り組みを考えていく方法や、全員一緒に考えていくという方法もある。今後のやり方やあり方、内容を一緒に考えていただければ、22 年度に向けて良い動きができるのではないかと思うので、是非ともよろしくお願いしたい。会議の規約には部会を作ると載っているのだが、どうするか。

会員　：夏休み親子環境学習会の内容とは？

事務局　：松阪市内の自然、文化等の環境に関する場所を記載したネイチャーマップを片手に、保護者と子どもがその箇所を回って実際の場所を観察したり、そこにまつわる話を聞いたりして、松阪市のいろんな環境を学んでもらおうという企画。

事務局　：松阪市のホームページと広報で参加者を募集した。

会員　　：今日始めて出席したが、我々は健康・福祉や環境問題に取り組んでいる。ここに参加することで、一緒に活動させてもらいたいと思っている。市の基本計画の中には多くの環境が示されているが、この環境パートナーシップ会議においてどのように取り組んでいくのか、どのように実現させていくのか。私どもの団体は、このパートナーシップ会議と行動を共にしていきたいと考えている。私どもは環境への取組みを多くやっており、特に環境問題についてはごみゼロ対策、水対策、生活排水、環境保全、緑地整備、地球温暖化対策、環境教育などに取り組んでいる。市長の公約に「NPO に対して市民税のうち 1 割を渡す」とあり、市長との懇談も行っている。基本計画の環境政策に対しどのようにやっていくか、という指針を示していただくとありがたいと思っているので、よろしくお願いする。

会長　　：規約の中に部会を置くとなっており、会員はどこかの部会に属することになっている。実際に活動するのはプロジェクトチームであり、会議の委員になっている人たちがどこかに入って、そこでそれぞれが実際に活動できるようないくつかのプロジェクトを組まなくてはならない。昨年行った内容が、このプロジェクトになり得るのではないかと思っている。どのようなプロジェクトチームを組み、どうやって成果を挙げていくのか。このプロジェクトとレジ袋収益金とは直接繋がるわけではないが、パートナーシップということで上手く取り入れながら、総合的に考えるといいかなと思う。本格的に 22 年度をやっていく上で、具体的にどういった内容でいくか。取り組みたいプロジェクトを先に決めてもいいし、他にあれば意見を言っていただきたい。

会員　　：部会に分けた場合、ベルファームは事業者になるが、環境活動の中心となるのは三重スローライフ協会なので、そうなると市民団体になる。進め方だが、部会長・副部会長が決まらないと先に進めないので、事務局と会長で指名していただき、とりあえず 3 つの部会を動かしたほうがいい。来年度以降は、各組織の中で決めればいいと思う。今のままだとどこがどう動いていいのか分からないので、尻すぼみの形になってしまう。それぞれの団体や市民が、自分のやりたいことを提案したほうがいい。その意見を踏まえて、各部会の中で皆でやるとか個人でやるとか決めていく。そういう方法がいいのではないか。

会長　　：各自がどのような内容のことをやりたいのかを出していただき、部会については、いくつかの顔を持っているところは悩むと思うが、所属部会を決めてもらう。事務局としては、部会長・副部会長は各部会で決めたほうがいいと思う。その後、運営委員会でプロジェクトを決め、各部会で参加・不参加を決めてやっていく、というのが理想だと思っている。皆さんがやりた

いことがあれば意見を出してもらいたい。スローライフ協会、ベルファームは何をする予定なのか？

会員　：ベルファームが 22 年度に考えていることは、レジ袋有料化に協力してもらった金額の一部をスローライフ協会に寄附し、スローライフ協会の方でボランティアを募り幼稚園や小学校に花の植樹を行っているが、この活動を引き続き行っていく。夏のキャンドルナイトも引き続き行っていく。また、天ぷら廃油を集めてバイオ燃料とする活動に昨年から力を入れて取り組んでおり、カーボンニュートラルな燃料を使ってイベントを行い、皆さんに理解してもらうことを今年考えている。園内で使うトラクターやフォークリフトは、100%BDFを目指している。現在、ため池水質浄化プログラムということで、地域自治会と園内の池の水質浄化の取り組みを進めている。それと、9 月の連休に環境フェアを行う予定で、この内のどこかの日に環境パートナーシップ会議主催で、去年よりヴァージョンアップした内容のものを考えている。昨年もかなりの事業者の出展があったが、今年はこの環境パートナーシップ会議の会員である事業者の方にお願いしたいと思っている。うまく行けば、ベルファームと環境パートナーシップ会議の共催で、「環境フェア in 松阪」みたいなものが出来ればいいかなと考えている。環境にこだわったフェスタやリユースマーケットをやっている方々が大阪にいるので、協力をお願いして、環境にこだわりを持った形で、活動資金の一部がそこから得られる位のリユースマーケットの開催を企画している。ベルファームは今年度環境活動賞をいただき、これからも環境に関わる活動により力を入れていくつもりでいるので、是非とも活用してほしい。

会長　：いいヒントが得られたと思う。「環境フェア in 松阪」ができるように、是非とも皆さんに頑張ってもらいたい。他に何か？

会員　：主婦の立場からだが、環境家計簿みたいなもの、例えば電気を 1℃上げるとどのくらい地球に影響があるとか、水道の使用量が増えるとどうなるかとか、そういったことが家庭に分かるようにしていただくのもいいかなと思う。

会長　：環境家計簿に以前関わっていたが、あれは面倒くさくてあまり役に立たない。誰もが生活している中で、当たり前のように役に立つものでないといけない。あまりにも面倒くさいとやらなくなる。誰もが簡単にできる「松阪版環境家計簿」みたいなものを考えていくのも良い提案だと思う。

会員　：マイバッグ持参のように、暖房の設定温度とかを示していくのもいいと思う。先ほどの廃油の件だが、三雲食生活改善推進連絡協議会でもてんぷら油を集めている。株式会社アンジェロさんに、循環型社会の構築とし

て、廃油を車の燃料として使い、余った収益金で休耕田に蓮華や菜の花を植えたりして環境を美しくしていくというお話を伺って、松阪市の環境を良くしていくために個人の油を使っていくことは良いことだと思い、天ぷら油の回収を始めた。こういうことは、この規約の中で特定の法人の利益に繋がるのか分からないので話せなかったが、今ベルファームさんから話が出たので、そういうことについてはどうなのか、教えていただきたい。

会長　：特定の会社の利益に繋がることはありえないが、いろんな会社が同じことをするのであれば、パートナーシップ会議の仕組みができていれば、どの会社にもプラスになっていくので、そんなに大きな問題にはならないと思う。その繋がりの役割をしていくのが皆さんであり、このパートナーシップ会議である。あまりその辺に神経を使わなくても、どうやって繋げてうまくいくのかというところを考えていただければいい。ただ、事業者は事業者としての考えがあると思うので、それは調整して進めていく中で出てくると思う。とりあえず環境に関する部分で、やるべき方向性がある程度決まっていけば、そんなに問題は無いのではないかと思う。

会員　：ベルファームさんが力を入れていることを、このパートナーシップ会議で進めていくと、一つの事業者がやっていることを公の場で広めていくことになり、それは支障があるのではないか？

事業者　：それはない。私たち指定管理者は、いわゆる普通の株式会社とは違い、最近よく言われる社会的企業に近いと思う。初めから目標を利益最大に置いていないし、逆に言えば置けないでしょう。ベルファームは市の税金で造られた公園であり、そこに民間のノウハウを持ち込んで、税金の投入をより少なくする方向で市民サービスを充実するというのが目標であり、そういった意味で民間のノウハウは必要だが、一方では公共的サービスはきちんと行う。先ほどの BDF の話だが、先日日立市に見学に行ったが、日立市では市が全工程をやっているが、意外にコストが掛かる。いくら良いことをやっても、あまり税金をかけてはどうかなと思う。企業が上手くやってくれるのであれば、そこと提携していけばいい。この会社だけと締結せよと言うのであれば、それはダメだと思う。大事なことは、多分捨てているであろう環境汚染に繋がるようなものを、少しでもましな方向へ仕組みとして誘導していくことだと思うので、とりあえず廃油を集めるシステムを作った。しかし、良い事だとは言ってもらえてもなかなか集まらないので、やはり啓発が必要になってくる。天ぷら油を川に流すと、BOD で魚が住めるようにするには大量の水が必要になる。そういうことから、少し手間ではあるが何かのついでに回収場へ持って行くという行動が広まれば、明らかに環境には良いことなので、いろんなやり方はあると思うが、

環境フェアの時にいろんなやり方を議論してもらい、もっと良いやり方を学べればいいと思う。

事業者　：先ほどからアンジェロのことを話していただいているが、最初の頃は廃油を持って行くのが面倒だと言われたが、最近は回収率も上がってきており、市民の皆さんが癖として受け止めていただけるようになっていけばいいと思っている。この規約の中に「～教育機関及び～」とあるが、資料の経過報告には載っていないが？

会長　：単純なミスだと思う。規約が正しい。

事業者　：経過報告を見てみると、子どもに関する活動が少ないと思う。弊社は子ども対象の勉強会なども開催しているので、もし取り入れて頂けるのであれば、子どもを取り入れた勉強会みたいなものも今後の活動に入れてはどうかと思う。

事務局　：ここでの教育機関というのは学識経験者のことであり、例えば大学教授といった方々の知恵を拝借する必要があるだろうということで、ここに位置づけしている。必ずしも毎回大学教授に来ていただくわけではないが、また違った立場で優れた知恵をお持ちの方にも来ていただきたい、という意味合いの教育機関である。

事業者　：小・中・高の学校を取り入れたもので、という形では無いということ？

事務局　：それは当然のこと。子どもや大人の環境教育は大前提に位置づけている。

会長　：今後の活動のありかたについてだが、規約もできているので、このパートナーシップ会議を動かすための機能・役割として 3 つの部会が挙げられているが、それぞれ呼びかけをして、ここに委員として参加する皆さんプラス、パートナーシップ会議に入会していただくわけだが、あまり目に付く場所に募集をしていないので、より多くの皆さんに委員の方から呼びかけをして、市としてもあらゆる方法を使って呼びかけて、3 つの部会が生まれるようにしていただく。3 月末まで努力して呼びかけて、4 月の早い段階で組織作りをして、そこで部会長・副部会長を決め、組織を起こしていくというシステム作りをしていこうと思う。会員となるための呼びかけは継続して行う。部会が動くことで、運営委員会も動いていく。今まで内容が決まっていないパートナーシップ会議でこれだけの活動をしてきたことを踏まえて、それぞれの部会が中心となってやっていけるような内容になればいいと思っている。さらに、部会ごとの連携によって、部会間のパートナーシップが出来ればいいと思う。先ほども言ったように、レジ袋収益金の使途が決まっているので、この会の皆さんも協力する形で、緑のカーテン、

アサガオの種など、各部会で手を取り合っていけると思う。ここで皆さんの大きな反対が無ければ、各部会が結成されて何をするかという時に、必ずこの取り組みについて話をしていただき、取り組んでいただければと思う。緑のカーテンをより活性化していくようなこと、9 月のベルファームでの環境フェアにて、今までのパートナーシップ会議で得られた成果や課題を発表、報告するということ。これは、3 つの部会が繋がってやっていく松阪ならではのものになると思うので、会が開かれる際には、是非とも皆さんから提案していただき、引き続き行われていくものにしていただきたい。それからもう一つ、ライトダウン・キャンドルナイトに繋がるもので、身近なところで皆が関わって取り組めるようなものもやって行きましょう。できれば夏だけでなく、冬もやっていけるようなことも提案していただきたい。夏休みの親子環境学習会だが、バスの都合であまり多くの方々の参加は出来ないが、その部分を上手く工夫していただいて、自然、歴史、生活環境など、子どもの自由研究に繋がるようなものになるので、教育機関とのコラボによって、パートナーシップによって発展させて開催するのもいいと思う。そういうことで、ここに載っている取り組みについては全部取り組んでいくことにして、また更に「松阪版環境家計簿」みたいなもの、松阪市のキャラクターである『ちゃちゃも』を上手く使ってやっていく。事業者のところでは、ベルファームとアンジェロが廃油から BDF を造るという形で、環境を汚すものではない形での取り組みを、事業者同士でのパートナーシップ、あるいは、当事者と事業者のパートナーシップという形で活性化できるようなものをやっていく。もし、植樹などというものがあるならば、他のいろんな会との協力で、植樹の種類や方法などを考えるような形でやっていく。以上のことから、パートナーシップ会議は文字通りパートナーシップで、既存でバラバラでやっているところを上手く束ねていくことを考えながら、22 年度は進めていく。事務局には、年度末までに各部会を発足させて部会長・副部会長を選出し、4 月 1 日から本格的に活動を開始するように言ったが、2 ヶ月くらいのズレが生じるのであれば、事務局から声をかけていただいて、一番いいタイミングを見計らって部会を発足していただきたい。そこができればパートナーシップ会議委員会、あるいは全体会を招集して、パートナーシップ会議の活動内容を表明できるように、22 年度の早い時期にお願いできればと思う。他に、意見があればどうぞ。

会員　：今日初めて参加したが、今日の会議の内容には十分理解したが、松阪市が発行している環境基本計画書に載っている様々な環境の中の一つに部会を作って、パートナーシップ会議でやっていくというのが本来の姿

ではないのか。松阪市にお尋ねするが、皆さんがこれに基づいてやっていくとするなら、ここに挙げている目標を我々が検討しながら進めていく、というのがパートナーシップ会議の役割ではないかと思って、ここに参加した。そのあたりの捉え方を、松阪市としてはどのように考えて皆さんに周知するのか？

事務局　：松阪市環境基本計画では「環境にやさしい行動指針」を掲げており、市民の皆さん全員がこの指針に沿って行動していただけるとありがたいのだが、なかなかそういうわけにはいかない。そこで、推進母体としてパートナーシップ会議というものを立ち上げ、この指針を広く市民に広めて普及させ、一つ一つの行動を進めていくことを考えている。その中で、基本計画書にある様々な環境を主体とするのではなく、市民・市民団体・事業者の 3 つの部会を組織し、それぞれの部会が自然環境や環境教育等に関わっていくような流れを考えている。

会員　：松阪市環境基本計画を一つの柱にしながらやっていこう、ということに変わりはないということだが、私たちの団体は健康・福祉・環境・まちづくりと 4 つの部会に分かれて活動しており、各部会で様々な問題を提起して取り組んでいる。私たちは、このパートナーシップ会議がこの基本計画書を進めていくために、様々な環境問題について取り組んでいくと思い入会した。これからいろんな意見が出てくると思うが、この方向は一本で持っていくというのなら、やはりそれぞれの部会に分かれて、その部会の中で協議していかないと。それぞれの良いところを捉えながらやっていくということになるが、まず組織を作るということが大事になると思う。

会長　：早々に部会を組織して、皆さんで部会長・副部会長を決めていただく。それぞれの部会が円滑に動き出したら、このパートナーシップ会議は上手くいくと思う。そこで共通に取り組めるもの、例えば環境フェアや緑のカーテン、ライトダウンなど、他にも提案があればやっていくし、各部会それぞれで取り組むものもあれば、コラボして取り組むものもあると思うので、そういう形に進めていけばいいと思う。事務局は横断的に各部会に出るだろうから、それぞれの部会の状況を各部会に情報として提供し、繋がりをより深めていくように手助けをしていき、その中でそれぞれの部会の特色を生かして、どういうところに力点を置いていくのか皆さんで決めていく。ある程度そこが見えてきたら全体会を開き、そこでまた協議し、さらにまた皆で考えていく。この繰り返しが、パートナーシップ会議成功への近道だと思う。なので、出来るだけ早く部会を作っていただきたいと、事務局にお願いしている。遅くても 4 月には始めたいが、年度末で忙しいので少しの

遅れは仕方ないかなと思っている。今からでも入会の呼びかけをしてもらい、たくさんの方々が参加で出来るようにお願いする。

会員　：ベルファームで環境フェアを開催するなら、松阪市としての生活排水、一般ゴミ、CO2 問題とか、環境課の中だけでなく横の繋がりとして、担当者に出ていただきたい。太陽光関係とかエコカーとか、全体的な環境問題について勉強できるような感じでやってもらいたい。

会長　：パートナーシップ会議を上手く動かしていくのは行政の手腕であり、行政だからこそ事業者に働きかけることも出来る。多くの方々が来ていただけるように盛り上げていく必要がある。

会員　：何度も同じようなイベントをバラバラにするより、横との繋がりで一度にした方が盛り上がる。

会長　：市長に提言する。環境はもちろん、環境に関わるいろんな方々が一丸となってやっていくということで、市もやる気が出る。縦割りとか横割りとか考える余裕はない。皆で一緒になって考えないといけない。9 月 18～20 日の環境フェアに若干時間があるので、皆で考えていく。

2. その他

会員　：先日あった 3R のフェアだが、開催通知が届いた人と届かなかった人がいるが、これはこの会とどのような関係なのか？

事務局　：資源循環推進課の方で、市民団体と事業者に展示の案内のために通知を出したのであり、開催通知ではない。開催のお知らせは、広報紙とケーブルテレビで行った。

会員　：フェアの前に会議は行う方がいい。その方が周知できる。

会長　：案内は全員に通知するべきでは？これも縦割りの結果である。パートナーシップなので、もっと横との繋がりをもっていくべきである。9 月のフェアは全ての機関に周知していくことにする。

副会長　：自治会長としても、22 年度は環境問題に重点的に取り組んでいくつもりなので、是非皆さんのご協力をお願いする。

会長　：では、時間ですのでこれで終わります。